



## 本当にあった怖い話

あれは、10年ほど前の夏のことでした。私は犬を連れてアクアドームの周辺を散歩していました。時間は夜の10時頃だったと記憶しています。ドームの周りは田畑で囲まれており街灯がありません。ドーム内のランニングコースを照らす灯りが消えるとすぐ脇の道路も暗闇に包まれてしまいます。

そんな中を散歩していたのですが、ふと前方をみると、ほのかな灯りが見えます。ボールのような形で左右にゆっくりと揺れながらこちらに近づいてくるのです。何だろうと目を凝らした瞬間、私は背筋が凍る思いをしました。何とその灯りは人の顔だったのです。空中に浮いた人の顔が左右にゆっくりと揺れながらやってきます。逃げたいのですが足がすくんで動けません。そして、顔がどんどん近づいてきて・・・。

顔の主は高校生でした。自転車に乗った高校生が携帯を見ながらやってきたのです。しかも無灯火で。暗闇の中、携帯の明かりにほのかに照らされた顔がまさに浮いているように見えたのでした。

そういえば、タクシーの運転手さんが言っていました。「自転車の電灯つけないで乗っている高校生が結構いてとても危ない。夜、突然飛び出してくるのでぶつかりそうになる。」そういった状況があるからでしょう。息子が通った高校は、暗くなったら自動的に点灯するライトがついていないと自転車通学は許可されていませんでした。それだけ無灯火による事故等が発生し、危険視されていたということでしょう。

当時は、携帯を見ながら自転車に乗っていることについては、それほど話題になっていなかったように思います。しかし、現在では、イヤホンで音楽を聴いたり、スマホを見たりしながら運転すること危険性が指摘されています。

また、スマホの使用だけではありません。自転車通学の高校生は、車道と歩道を勝手に使い分けることがよくあります。車道を走っていて信号が赤になったら歩道へ移動したり、横断歩道を渡っている子どもたちの横を平気ですり抜けてたり・・・。とても危険です。

交通事故に遭わないように注意を促し、しっかりと見守っていかねばならないと思います。その一方で私たち大人の指導が不十分だったのではないかと反省することもあります。前述した自転車の行為は、小学生からみれば、とても遠い出来事のように感じます。しかし、小学生であろうと高校生であろうと、根幹部分は同じです。要は、周りの状況に気を配り、安全に心がけているかどうかです。自転車でヘルメットをしない、左右の確認をしないで飛び出していく。或いは、友達と数人で並び、平気で歩道の下を歩いていく。周りの迷惑に気づかない、配慮しない。このような行為の延長線上に高校生の姿があるような気がしてなりません。

何がそのような行為につながっていくのか、目の前の子どもたちをしっかりと見つめ、指導していくことが必要ではないでしょうか。